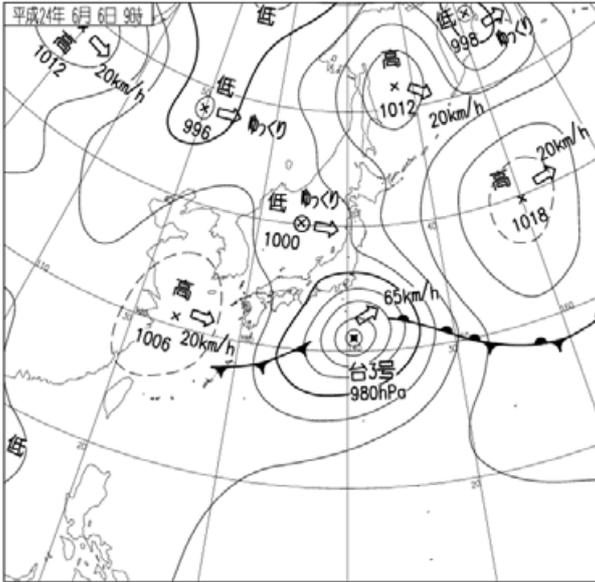


金星通過を捕らえる

津田 剛

金環日食に続いて今度は金星太陽面通過である。金環日食の際は東京まで遠征して大戦果であった。そこで今回はどうだろう。



予想天気図を見る。1週間前に発表された予想天気図を示す。

(サニースポットのHPより)

あまり期待できそうな図ではない。

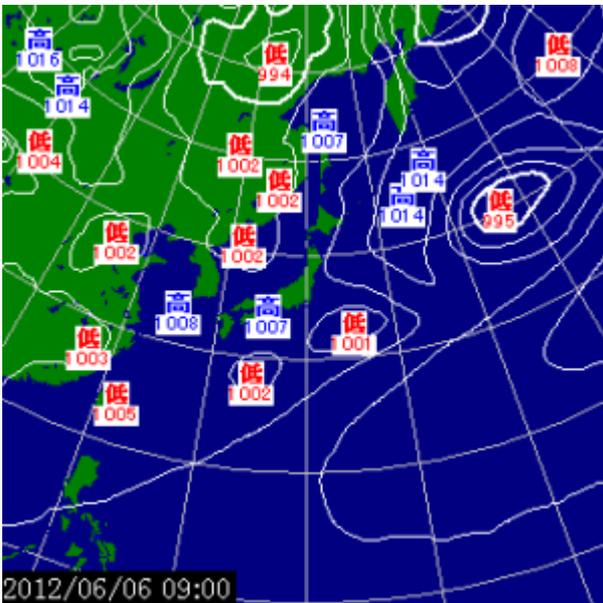
今回は台風というやっかいなものが現れている。

下図に当日の天気図を示す。(気象庁のHPより)

しかし、台風のスปีドが上がり、あっという間に通りすぎて黄海にある高気圧が張り出し大分県や西日本地区は天気は回復した。今度は関東あたりが天気が悪く犠牲になった。6月の台風は一般に秋台風と違い迷走するが今回は偏西風のおかげで思ったより速く車のスปีド並みに通過した。結局台風のおかげで、結果は好天になった。しかし今回は金環のように遠方に行く気はなかった。

それは以下の理由であった。

- 1 金環のときと比べて、見える範囲が広い。
- 2 経過時間も長いので曇っていても時に雲の切れ目から見られるチャンスがある。



3 前回の通過を見たので心理的にも余裕があった。

前回の金星通過のときも天気が悪く日本列島は殆どが曇りで晴れていたのは房総半島付近と北海道の北部くらいであったことを記憶している。

しかしこの場合も大分では夕方6時頃、雲の切れ目から日が差し通過を見ることができた。

この時、写真撮影は失敗した。眼視用のフィルターを使用してカメラのファインダーは、金星をはっきり捉えられていたのだが、なぜか写っていなかった。当時は銀塩からデジタルの移行期にあったが、私は当時フィルムカメラしか持っていないので、露出を変化させて撮影したのだが太陽本体は、はっきり写っているがなぜかあんなにはっきり見えた金星が写っていない。

今回の通過は前回の失敗を踏まえて、撮影用のフィルターを購入し備えた。これを400ミリの望遠レンズの先端に装着し(金環撮影のときのまま)ておいた。メーカーは京都の外国製の望遠鏡の販売店であった。

さて今回はカメラのファインダーを見ると、なぜか金星がはっきりしない。取り敢えず撮影し画像を見ると、金星がはっきりと写っていた。しかし撮影用フィルターは蛍光灯の光が僅かに見えるような感じなので、あまり長く見ないほうが良さそうだ。ほんのわずかな時間でカメラのファインダーを見て撮影した。

ちょっとアンダー気味の写りであった。

望遠鏡レンズに比べると画像はやや落ちるが金環、金星通過と400はよく活躍した。

今回、こういう天文現象があると一般大衆に報道機関が良く報道したのは良かったことと思います。ネットのウィキペディアを見ると遠い将来の事だが金星と水星の太陽通過が同時に起こる年次も記載されていた。6万年も先の話であるが 人類は無事に生存しているのだろうか。また火星から海王星まで内惑星の太陽通過も記載されていた。



つまり海王星から見て地球の太陽通過などが何時見えるか記載されていた。(本当に見えるのかな)

2012年6月6日
午前10時30分頃
EDニッコール400mm
(600mm相当)
G8 1/1000秒

大分市内自宅にて 撮影